

# 飯 南

いいなん

## 議会報

第82号  
令和7年7月18日

- 2-3 6月議会報告  
可決した主な議案  
令和7年度各会計補正予算  
令和6年度からの繰越事業の報告
- 4-10 一般質問
- 11 活性化検討特別委員会Q&A／採決の結果
- 12-13 教育環境基本計画(素案)調査・審査報告書
- 14-15 常任委員会報告  
議会活動報告／全員協議会の報告
- 16 明日を拓く



# 6月定例会を終えて

6月3日から6月13日までの11日間の日程で開催

令和の米騒動を受け、政府は備蓄米の放出方法を「出荷業者による入札」から「随意契約による小売業者への直接販売」へと転換し、高騰している米価の抑制を図った。この動きは消費者にとっては歓迎すべきだが、生産者にとっては、生産コストに見合った適正な価格設定が求められる。

令和7年度一般会計補正予算では、特別養護老人ホームの統合に向けた造成測量設計、用地取得および敷地造成工事の実施に予算を計上。さらに、物価高騰対策として実施した調整給付金の不足分、新型コロナウイルス接種他助成、申請数の増加に伴う定住対策補助金を盛り込み、総額1億8千4百万円余を可決した。

## 可決した主な議案

### 条例関係

- ・飯南町人・農地プラン検討会設置条例を廃止する条例

### 承認

- ・飯南町税条例の一部を改正する条例の制定など3件

### 予算

- ・令和7年度飯南町一般会計補正予算（第1号）など6件

### 諸議案

- ・財産（消防軽積載車）の取得など6件

### 報告

- ・令和6年度飯南町一般会計繰越明許費繰越計算書の報告など7件

### 議員提出議案

- ・飯南町議会会議規則の一部を改正する規則の制定
- ・飯南町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定

## 令和7年度 各会計補正予算

一般会計は**1億8495万円 増額**

高齢者福祉施設整備事業1億4431万円の増額、給付金・定額減税一体支援事業2685万円の増額、感染予防事業699万円の増額、公用車NHK受信契約による159万円の増額、人事異動等による人件費の2082万円の減額など

| 会 計 名    |            | 補正予算額    | 予算総額      |
|----------|------------|----------|-----------|
| 一 般 会 計  |            | 1億8495万円 | 76億7147万円 |
| 特別会計     | 国民健康保険事業   | 15万円     | 6億2573万円  |
|          | 介護保険サービス事業 | 4万円      | 4109万円    |
| 病院事業会計   |            | 7799万円   | 14億5515万円 |
| 簡易水道事業会計 |            | -168万円   | 5億6838万円  |
| 下水道事業会計  |            | 382万円    | 5億8929万円  |

## 令和6年度からの繰越事業の報告

事業の進捗状況により年度内に事業が完了せず、やむなく繰越とした事業について報告があった。

| 会 計 名    | 繰 越 額    | 主 な 事 業                                                            |
|----------|----------|--------------------------------------------------------------------|
| 一 般 会 計  | 3億5535万円 | ・頼原農村環境改善センターみせん臨時管理費<br>・滞在型地域交流拠点整備事業<br>・町道八神千原線整備事業<br>・災害復旧事業 |
| 簡易水道事業会計 | 600万円    | ・水道管支障移転工事                                                         |
| 下水道事業会計  | 399万円    | ・下水道管支障移転工事                                                        |



## 農林業の持続可能な体制構築を問う

平石 玲児 議員

## 一般 質問

令和7年 6月定例会

## 認知症予防 効果ある補聴器

伊藤 好晴 議員



### Q 補聴器助成事業の拡充を

3年前の9月議会で本事業導入を求めて質問した際には拒否だったが、今回事業導入された。なぜ考えが変わったのか。

実施要綱について2点質問する。

①（補聴器を必要とする）意見書作成は「耳鼻咽喉科の診療を行う病院又は診療所の医師による」との記載は、開業医は含まないと受け取られる場合がある。それで良いのか。「補聴器相談医を受診」とした方が正確に伝わると思う。

②補聴器購入先が「医療機器の販売業者」だが、正確には「認定補聴器技能者」のいる「認定補聴器専門店」からの購入だと思う。説明を求める。

今の助成金額は少なすぎる。金額見直しを提案する。10万円までは2万円、それ以上は秋田県美郷町の例にならない5万円を上限に2割助

成が適当と考える。

助成金の支給は、償還払いではなく代理受領委任の方がよいと思ひ提案する。

補聴器が10万円を超えたり、補聴器購入を含む年間の医療費が10万円を超える場合には、医療費控除の対象となる。ここまで助言することで、購入者の負担をさらに減らすことができると思うがどうか。



### A 助成は増額しない

町長塚原隆昭

聴力が低下した方が補聴器をつけることで、認知症予防に効果があることを改めて認識し、考えが変わった。

耳鼻咽喉科診療を行う全ての先生を対象としている。補聴器相談医はハードルが高いと思う。

購入先を認定補聴器専門店に限定すると、購入店が限られてしまうことが想定され、厚生労働大臣の指定する検定に合格した補聴器の使用が必要であることを要件とした。

島根県の耳鼻咽喉科医会の見解では、中等度難聴程度は10万円前後の補聴器で十分対応できるということで決定しているので2万円を上限にしている。

代理受領委任については、本町ではできないと思うが検討はする。

医療費控除の対象になるということは、チラシにしっかりと追記して周知する。

### Q 災害関連死認定審査会の検討結果を確認

昨年6月議会において、標記の件について質問した。

町長は「何もない状況の中でやっぱり事前に準備しておくことが大事だと思っておりまして、この審査会の設置について検討を進めてまいります（会議録の記載）」と答弁した。その後の状況を尋ねる。

### A 条例制定から着手

町長塚原隆昭

災害認定審査会を県で設置するよう要望したが、実現できなかった。町単独で行うことになる。

人選が困難と思うので、条例改正から着手する。

#### 災害関連死認定の仕組み

親族などが災害で死亡した場合、死亡診断書などを遺族が市町村窓口申請し、医師や弁護士などで構成される審査会が協議を行い、認定されると災害弔慰金が支給される。

### Q 飯南米品質保持を

町が誇る飯南米について、冷涼な気候を活かした高品質を評価する一方、水稲の作付面積の減少や温暖化による品質低下の懸念がある。持続可能な米づくりへの具体策は。

### A 組織的営農で

町長塚原隆昭

土壌診断や技術指導、農地の集積化などの取組を進めている。また、カントリーエレベーターの利用促進や、集落営農・法人化による効率化を推進し、安定した生産体制の構築に努めている。

### Q 流通体制の強化を

園芸作物の、パプリカ、メロン、ブドウ、ショウガなど多様な作物が地域支援のもと生産されている現状は評価する。新規就農者の確保とともに、直売所や学校給食との連携、共同選果場の整備とい



飯南町野菜共同選別施設

た流通体制の強化が必要と考えるが。

### A 産地定着を図る

町長塚原隆昭

都市部での就農相談会や支援制度の案内、初期投資軽減のためのリースハウス整備を進める。J・Aが選果施設整備を行う場合は支援を検討する。

農機導入は、作物に応じた支援を行い生産体制は整備されている。



和牛共進会

### Q 和牛の誇りを次代へ

全国和牛共進会での受賞実績がある。

和牛産地としての維持に向け、後継者不足や飼料費高騰、家畜伝染病への対応は。

### A 基盤・防疫充実を

町長塚原隆昭

リース牛舎の整備や優良雌牛の導入支援により基盤強化を図っている。稲わらと堆肥の交換による耕畜連携、WCS（飼料用稲）事業、感染症予防のためのワクチン接種や衛生管理を強化している。

### Q 未来へつなぐ 森林行政を

森林率86.3%という豊富な資源を背景に、伐採期を迎えた資源活用と持続可能な管理、人材育成が急務だ。木材価格の低迷や鳥獣被害、担い手不足の対策は。

### A 活力再生を目指す

町長塚原隆昭

路網整備による搬出効率化、町産材の住宅利用促進、J・クレジット活用による新たな収益確保を行っている。林業人材確保に向けた制度は見直し、農林大学校との連携強化、学生向けのポイント制度創設などの取組を進めている。

鳥獣被害対策を継続し、地域を守る体制を強化する。

# 一般 質問

令和7年 6月定例会



## 水道の未接続解消を

景山 登美男 議員

再検討では、ごみ処理の民間委託の可能性や、施設整備を行う場合の規模・手法など、施設のあり方を含め多角的に検討する必要がある。当面は雲南市の新ごみ処理施設整備準備室で対応を進めるが、再検討結果が出れば雲南広域連合が事務を行うことで合意している。

この整備事業は早急に取り組むべき行政課題であり全力で取り組む。

### Q 再検討後は雲南広域連合で

町長塚原隆昭

**Q** ごみ処理施設再検討所管の明確化を

ごみ処理施設整備費用が大幅に増加する見込みのため、民間業者への業務委託も視野に入れた再検討を進めるとの報告があった。

再検討に異論はないが、この事業は雲南圏域全体の重要課題で、雲南広域連合が所管すべきだと考えるがどうか。

### Q 未接続地区解消に努める

町長塚原隆昭

佐見地区の水量不足は、新



**Q** 水道供給網整備は

佐見水道の水量不足改善と、接続率の低い佐見、奥畑、宇山、敷波への対策を尋ねる。

さらに、簡易水道未整備地区(都加賀、長谷、獅子地区)への町の考えと、具体的な整備方針を問う。

たな井戸掘削と安定供給が可能な敷波浄水場からの送水で検討している。

接続率が低い原因は、簡易水道整備が遅れ、井戸水などで対応してきた世帯が多いことにある。個人管理よりも町管理の簡易水道が安全に安定供給できる利点を説明し、未接続解消に努める。

都加賀、長谷、獅子の各地区は家屋が点在し、中心部から離れていることから、多額の事業費がかかる。簡易水道だけでなく、戸別井戸への助成も視野に検討を進める。

### Q 空き家バンクの価格設定支援を

空き家バンクの登録物件は、賃料や売却価格の算出が不明瞭だ。

定住支援センターでは適正価格の算定も困難で、最終契約の手続きはしていない。スムーズな契約成立のため、手数料を助成し、専門業者に依頼してはどうか。

### A 効果的施策を推進

町長塚原隆昭

物件価格は所有者の意向で決定されている。

定住支援センターでは、空き家所有者に対し不動産鑑定士による価格評価も提案している。この方法は適正価格設定と契約手続きの安心に繋がるため、依頼が増加傾向にある。

本町では空き家の改修・片付け費用補助などの支援事業を行っている。既存の支援策を検証し、より効果的に推進できるように組み立てる。

## 漬物文化を残したい

内藤 眞一 議員



### Q 山荘建替への財源案を

琴引ビレッジ山荘は、スキースーズン以外の利用者は少ないが、宿泊者がいる以上、必要な施設だ。特に、盆や正月に町出身者が帰省しても予約が取れないケースがあると聞く。山荘は、元々中国電力の簡易宿泊所を旧頼原町が改装したものだ。

島根原子力発電所事故時の避難所としての重要性が高まる中、避難が長期化した場合に備え、この山荘を宿泊施設として活用すべきだと考える。昨年、松江市大野地区住民が本町へ避難訓練の下見に来たが、特に高齢者が多い地域からの避難を受け入れるには、学校や体育館だけでは不十分だ。

山荘の建て替え費用の一部を中国電力から支援してもらえば理想的。中国電力は、島根半島防災対策に50億円を拠出するなど、原発事故への対応に非常に敏感であるため、周辺市町だけでなく避難先への支援も検討されるべき。

### A 幅広く探す

町長塚原隆昭

新たな宿泊施設を建替える場合の財源について、今回の提案にあった中国電力からの補助金・支援については、現時点では不明。

しかし、民間団体からの助成制度なども含め、幅広い選択肢を検討し、有利な財源を確保していく必要がある。

提案も念頭に置き、進めていきたい。

### Q 漬物補助金手続き簡素に

本町では、食品衛生法改正で漬物製造に営業許可が必要となったことを受け、「飯南町漬物製造事業継続支援事業補助金」を創設した。この補助金は、許可取得に必要な整備費用の一部を支援するものだ。

しかし、金銭的な問題よりも、許可申請の手続きが煩雑なことが課題となっている。これにより、高齢者の生きがいでもある漬物作りが難しくなることを懸念する声が上がっている。

漬物は色々な味があるからおいしく、創る文化であり、その楽しさを守るべきだ。申請書類作成や図面作成など、住民が困っている部分を支援することで、漬物文化を維持し、生産者の喜びにも繋がるのでは。

### A 積極的に支援

町長塚原隆昭

雲南保健所およびJAと連携し、この制度や手続きに関する説明会を改めて開催したい。

希望される方々への書類作成や図面作成についても、積極的に支援を行う。





## 飯南米 持続可能な支援策を

安部 丘 議員

大区画化と効率化に予算を集中する国の一点突破政策では、中山間地域における

本町の農林業振興計画（令和7年～11年）における水田農業には、集落営農法人化と認定農業者による広域での農地集積（集積率53・4％）により、担い手不足が解消されつつあると示され、課題としては、省力化による作業負担の軽減策、法人化が進まず営農継続が見通せない集落への対応とされ、今後の取り組みとして、共同施設の利用促進と除草作業軽減、スマート農業の導入推進とされた。

### Q 飯南米の 安定供給のために

昨夏に始まった「令和の米騒動」。年明けも米価は上昇を続け、備蓄米の放出でも混乱が続く。政府には、生産者と消費者の双方が納得できる価格で折り合えるよう導いて欲しい。

農業基盤の強化はできない。補助事業にも集積という条件があり、本町の半数近い水田農家（337世帯）は、何の支援も受けられない。将来に希望が持てず、いずれは営農を断念することになる。こうした農家にも省力化支援が届く政策が必要。意欲を持つて農業と向き合う環境を整え、農家を存続させ人を繋ぐことこそ将来への架け橋だ。

備・管理と利用者への配送を町内農機会社に委託すれば、地域おこし協力隊の採用や特定地域づくり協同組合からの派遣もでき、活性化と人手不足解消に繋がる。また、法人の補助金活用も進んでいないと聞く。理由は、募集期間が短く必要な書類が整わないことにある。制度を熟知した担当者を置き、申請手続から結果報告までを支援できる窓口の設置を求める。

### A 県の新たな スキームを活用

町長 塚原隆昭

県は今年度、農作業の省力化に必要な機械設備等の導入支援として、省力化投資支援事業を創設した。要件は、経営面積が30アール以上、年間販売金額が50万円以上となっており、小規模農家への支援も可能。また、町独自のスマート農業関係補助金（県1／3、町1／3、自己負担1／3）も用意している。簡易な畦畔整備・圃場改修は、県の農地有効利用支援整備事業があるが、補助率は低く農家負担が大きい。中間管理機構に農地を預け、当面は個人で営農する緩やかな集積組織をつくり、高効率な補助事業が行えるよう推進したい。

煩雑な申請手続きに対しては、申請から実施報告まで一貫した支援が可能となるよう、専任の配置を含め体制を検討する。



## 急激な脱炭素化に危惧

高橋 英次 議員



### Q 安全を担う 人材確保を

獣害対策は駆除が一番効果的で、本町では、猟友会員72名で駆除に当たっており、内訳は、わな猟免許所持者71名、銃猟免許所持者は、頓原地区6名、志々地区4名・来島地区4名・赤名地区1名・谷地区0（赤名から支援）の15名である。ある会員は、高齢で辞めたくても「止め刺し」の代りはおらず、他地区からの応援も仕事などですぐには無理だと話す。



わなに入ったイノシシ

### A 後継者確保に 取り組む

町長 塚原隆昭

①可能である。職員が自発的に関心を持てるような働きかけを行う。  
②可能である。職員も鳥獣被害対策実施隊に登録しており、制度上問題ない。  
③補助金としての交付であり、兼業には該当しないと認識。  
地域と連携し、担い手の育成・後継者確保に取り組む。

### Q 脱炭素はゆっくりと

環境省が募集する、地域脱炭素移行再エネ推進交付金（重点対策加速化事業）に、個人・事業者向け8事業と、行政実施事業10事業で申請したとの説明だが、行政実施事業の内容には懸念材料がある。

太陽光発電では、自然破壊・豪雨災害・土砂崩れの危険性や、パネルの損壊飛散、航空機の運航への支障も考えられ、本町で利用しているドクターヘリの運用も心配される。

公用車の電動化では、2030年までにすべてEV化を図るが、充電設備や、充電時間待ちによる車両運用の滞りと業務への支障も考えられる。緊急車両も電動化となれば、安心安全の確保が心配だ。

小水力発電事業は水量と落差が必要となり、水利権の問題もある。最近では河川の水量も減っている。こうした事業の推進が、将



他県のメガソーラー例

### A 本町にあった 取り組みで

町長 塚原隆昭

避けて通れない行政課題なので、周知啓発と気運の醸成を図り、背伸びせず、本町に合った脱炭素事業に取り組む。

## 議会活性化検討特別委員会に対する

### 質問と回答(抜粋)

**Q.** 議員のなり手不足解消のため、報酬の決め方を地域の実情に合わせて独自に決めるべきではないか

**A.** 現在の議員報酬は、全国町村議会議長会の算定式も参考にしつつ、地域の状況を考慮して決めています。しかし、なり手不足の解消を最優先に考えるならば、地域独自の視点から報酬額を見直すことも検討し、さらに議論を深める必要があると考えています。議員報酬の見直しだけでなく、立候補しやすい環境を整えることや、議員の役割・魅力を広く発信していくことも、同時に重要な課題として検討を進めています。

**Q.** なり手不足は以前から課題だったと思いますが、報酬増額以前にどのような取組をされてきたのでしょうか。

**A.** なり手不足は以前から認識しており、議員活動のやりがいや意義を住民の皆様へ伝える機会が不足していたことを課題として受け止めています。なり手不足の解消には、議会の説明努力はもちろん、住民の皆様が議会に関心を持ち、自ら関わろうとする意識も大変重要だと考えています。今後は、双方向の理解促進に向けた取組を進めてまいります。

**Q.** 若者の声を集め、スムーズなやり取りのために議会公式LINEの導入を

**A.** LINE導入によるコミュニケーションの可能性を認識している一方、個人情報保護、誹謗中傷リスクへの対応、意見収集ルール整備、運用コストと事務的負担など、慎重に検討すべき課題があると考えています。今後、他自治体の導入事例も参考にしながら、運用が可能かどうかを検討していきます。

Q&Aの全文は近日中に飯南町議会のホームページに掲載予定です。

## 採決の結果 [6月定例会]

議案の採決結果は次のとおりです。

| 件 名                             | 結果 | 伊藤好晴 | 熊谷兼樹 | 内藤眞一 | 高橋英次 | 安部誠也 | 景山登美男 | 安部 丘 | 平石玲児 | 戸谷ひとみ |
|---------------------------------|----|------|------|------|------|------|-------|------|------|-------|
| 飯南町税条例の一部を改正する条例の制定             | 承認 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○     | ○    | ○    | ○     |
| 令和6年度飯南町一般会計補正予算(第10号)          | 承認 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○     | ○    | ○    | ○     |
| 令和6年度飯南町下水道事業会計補正予算(第5号)        | 承認 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○     | ○    | ○    | ○     |
| 飯南町人・農地プラン検討会設置条例を廃止する条例の制定     | 可決 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○     | ○    | ○    | ○     |
| 財産(消防軽積載車)の取得                   | 可決 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○     | ○    | ○    | ○     |
| 財産(堆肥運搬車両)の取得                   | 可決 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○     | ○    | ○    | ○     |
| 財産(マニアスプレッダ)の取得                 | 可決 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○     | ○    | ○    | ○     |
| 財産(町営バス車両)の取得                   | 可決 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○     | ○    | ○    | ○     |
| 財産(頓原中学校スクールバス)の取得              | 可決 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○     | ○    | ○    | ○     |
| 財産(学習者用コンピュータ)の取得               | 可決 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○     | ○    | ○    | ○     |
| 令和7年度飯南町一般会計補正予算(第1号)           | 可決 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○     | ○    | ○    | ○     |
| 令和7年度飯南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)   | 可決 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○     | ○    | ○    | ○     |
| 令和7年度飯南町介護保険サービス事業特別会計補正予算(第1号) | 可決 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○     | ○    | ○    | ○     |
| 令和7年度飯南町病院事業会計補正予算(第1号)         | 可決 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○     | ○    | ○    | ○     |
| 令和7年度飯南町簡易水道事業会計補正予算(第1号)       | 可決 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○     | ○    | ○    | ○     |
| 令和7年度飯南町下水道事業会計補正予算(第1号)        | 可決 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○     | ○    | ○    | ○     |
| 飯南町議会会議規則の一部を改正する規則の制定          | 可決 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○     | ○    | ○    | ○     |
| 飯南町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定         | 可決 | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○     | ○    | ○    | ○     |

○:賛成 ●:反対 欠:欠席

## 一般質問

令和7年  
6月定例会

## スキー場にホテルを創るのか

安部 誠也 議員



### Q 就労外国人を受け入れは

町内企業で就労している外国人は何人か。また、これまで企業内での問題や地元住民とのトラブルなどはあるのか。

少子高齢化・人口減少社会の中で、外国人就労者の受け入れはもつと増える。町として企業に対する支援や外国人就労者の活躍に向けての考えを問う。

政府は人材の育成・確保を目的とする「育成就労制度」を創設する。問題点も把握し、現場からの意見や提案を町が積極的に吸い上げていくこと(ポトムアップ)が大切と思うがどうか。

### A 現場の声を聞く

町長 塚原隆昭

町内企業には48人。失踪事案が2件でトラブルは聞いていない。人手不足が深刻な建設業、製造業、福祉施設が主だが、「飯南町中小企業人材

確保対策事業助成金」や介護人材を確保するための「飯南町外国人介護福祉人材確保対策事業助成金」も支給している。  
町としては、既に雇用されている現場の声をしっかりと聞き、支援できることはする。

### Q スキー場ホテルは

施設老朽化のため、現在の施設の課題を整理し、将来を見越した機能再編ができるよう、観光宿泊交流施設の今後のあり方が検討されている。

観光施設と、地域交流施設である「衣掛」を一緒に考えているため、町執行部に対し、町民の疑問と不信感が募っている。まずは住民の声に耳を傾けるべきだ。むしろ町民からは、建設事業費が増額されるご時世なので、今ある宿泊施設を大事に使うべきだとの意見が聞かれる。まだスキー場に新たなホテルの建設を考えているのか。

### A 住民、利用者の声を聞く

町長 塚原隆昭

赤名の説明会では「衣掛」宿泊施設を残して欲しいという意見が多数だった。

新たな宿泊施設建設をするとした方針ありきでなく、地域住民や利用される方の声を聞き整備方針を固めた。



憩いの郷 衣掛

### Q iまるシェの閉店は

三次市の飯南町アンテナショップ(iまるシェ)を正式に閉店するが、契約状況とその後の方針は、出荷者団体へのフォローはしているのか。

### A 今年度末まで

町長 塚原隆昭

賃貸契約が終了するのが今年度末で、指定管理先である有限責任事業組合飯南パートナーズも解散される。7月に農家の皆さんに閉店のお知らせをし、2月末まで営業、3月は店舗の片づけ。4月以降はそば店を運営されている個人事業主の方が新たに賃貸契約をされ営業される。

出荷者団体への対応・出荷先の確保はJ Aと協議する。

# 教育環境基本計画 素案 調査・審査報告書

教育環境基本計画検討特別委員会  
委員長 内藤 眞一

「教育環境基本計画（素案）」（以下「素案」という）について調査・審査し意見を取りまとめたので報告する。

まず、教育環境基本方針（答申）（以下「答申」という）について検討委員会の作野委員長をはじめ、委員の皆様には基本方針策定にご尽力をいただきましたことに厚くお礼を申し上げます。

これを受けた教育環境基本計画策定においては、先般、教育委員会から示された素案では、特に中学校の再編においては住民の混乱と不満を招き今後の町づくりへの影響も避け

られないことから、議会としても素案の段階で意見を述べる必要があると判断し、令和7年第2回飯南町議会定例会にて教育環境基本計画検討特別委員会（以下「特別委員会」という）を設置し、調査・審査を付託することを議決した。

特別委員会において令和7年4月3日から5月22日まで5回にわたり、付託された素案の調査・審査を実施した。

審査意見を以下の通り報告する。

## 記

### 1. 審査意見

#### 小学校について

答申では適正規模と配置の理念として『「地域ぐるみで育てる教育環境」を本町の適正規模の理念とし、可能な限り小学校を存続する。ただし、全校児童数15人未満かつ3学級以下となる場合が一定期間続く小学校は、再編も含め、その在り方を検

討する。再編を検討する場合は、地域の実情や施設の状況を十分配慮して検討する』とされている。

素案は答申に沿ったものであるが令和5年度、6年度の出生者数が減少している現実があることから、次の通り項目を追加し、特別委員会の意見とする。

(1) 赤名、来島、頓原小学校については、児童数の推移や学校の状況から判断して、可能な限り存続する。

令和12年度、13年度の新入学児童数はいずれも20人を切る厳しい状況がある。今後の小学校の在り方を（1校も視野に）研究する。



志々小学校

(2) 志々小学校については、児童数の減少と学校施設などの状況をもとに、保護者や地域と十分に協議し、頓原小学校への統合を検討する。

#### 中学校について

答申では適正規模と配置の理念として『「学校集団で育てる教育環境」を本町の適正規模の理念とし、学校集団による人格形成と、中高の連携を考慮しつつ再編を検討する。

なお、再編を検討する場合は、地域の実情や施設の状況を十分配慮して検討する。再編する場合は、保



頓原小学校



頓原中学校



赤来中学校

これらの検討にあたつては客観性を確保する観点から、再編検討委員会等を設け十分議論し決定していく。  
(2) 素案の比較欄にはいささか理解し難い点もあり、町長部局との内部協議が十分なされたのか疑問がある。このことは定住対策、子育て支援、交通対策など町づくりにも大きな影響があると考える。十分な協議を望む。

### 2. その他の事項

素案に示されている児童生徒数について令和6年2月時点とされているが、令和7年4月時点の数字について早急に示し、追記されたい。

このほか特別委員会で出された意見は別紙の通りである。

## 以上



赤名小学校

(イ) 近年の出生者数から類推すると小学校の再編もそう遠くはないのではないかと。新校舎建設をするにあたっては、飯南町ならではの魅力化のひとつとして、小中一貫学校も視野に検討した方がよい。  
(ロ) 子どもたちに、より良い教育環境をどうやってつくっていくかが重要で、銭金が大きな判断材料となつてはならない。計画にある他の事業をやめてでも教育環境を優先すべきではないか。

(ウ) 基本計画に再編の結論まで記載するのは行き過ぎ。教育環境基本方針（答申）を受け、町がどうするかを示すのが基本計画だと考える。  
示すとしたら新校舎建設、頓原中学校使用、赤来中学校使用の3案を示すに留め、基本計画の後に検討すべき。

(エ) 基本計画の策定手順に問題があった。教育委員会だけで進めず、色々な形、色々な協議を経るべきだった。検討の積み上げができていない。  
基本計画（素案）は一旦撤回すべき。  
(イ) 基本計画（素案）が示してから成案（6月予定）とするまでが、あまりにも性急過ぎる。6月の成案は撤回すべき。



来島小学校

(カ) 新町建設時の申し合わせ事項では、『頓原地区は「医療福祉拠点」、志々地区は「観光交流拠点」、来島地区は「教育拠点」、赤名地区は「一般行政拠点」としており、多くの町民は承知している。それに沿って町政を進めてきたので大きなめ事なく運営されてきた。それを覆して進めるならば理由を明確にしなければならぬ。混乱と不満を招き、今後の町づくりにも影響は非常に大きい。  
(キ) 志々小学校の児童数は、教育環境基本方針（答申）が示す再編の要件を満たしており、頓原小学校との統合について地域を巻き込んだ議論を進めるべき。統合までの安全対策として志々小学校校舎の補強工事は早急に着手すべき。

小中高一貫教育など飯南町ならではの魅力ある教育をより一層強化できるような場所を検討する』とされている。  
素案では令和10年度までに再編し、頓原中学校校舎の使用を検討するとされたが、このことが答申の理念を検討されたとは言えず、あまりにも短絡的であると懸念する。  
こうしたことから特別委員会としては次の通りの意見とする。  
(1) 飯南町ならではの魅力ある教育を一層強化するため、中学校再編にあたっては新設を基本とする。但し、新設までの間にあって再編の必要性が生じた場合は、赤来中学校、頓原中学校のいずれかの校舎を当分の間、使用する。



## 飯南町の地域農業

# 未来への挑戦

農事組合法人アグリ・ドリーム口小田  
合同会社サポート小田 代表

まつだ みのる  
松田 稔さん(小田)

## 「共創」の理念で拓く 口小田の農業

「みんなで共に感動を味わい、共に働き、共に創り上げていこう」——これこそ、アグリ・ドリーム口小田の設立理念です。

地域農業の活性化と持続性を目指し、営農組合を法人化したのは6年前のことです。現在、17戸の農家からなっています。

組合員数は38名、平均年齢は69歳と高齢化が進む中、オペレーターの平均年齢は58歳



多世代にわたる役員での話し合い

と比較的若く、新たな担い手も育っています。

若いオペレーターの負担軽減と効率化のため、作業環境の整備には特に力を入れています。冷暖房完備のトラクターや最新鋭のコンバインを導入し、さらに直進アシスト機能付きの田植え機を活用。これにより、経験が浅くても熟練者と同等の精度で作業ができるようになり、作業効率と品質向上に大きく貢献しています。

## 若手が輝く！

## 持続可能な農業への挑戦

スムーズな世代交代は、最も重要な課題の一つです。その

ために、年に一度のバーベキューは、互いに本音で語り合える貴重な場となっています。特に30〜40代の若手にも役員に加わってもらうことで、若い世代の積極的な参画が促され、主体的に活動に取り組める環境が醸成されています。

また、周囲が若い世代の事情(子どもの学校行事など)にも理解を示すようになったことで、より柔軟な参加が可能となり、若手の定着に繋がっています。これは、役員自身が行ってきた経験から、持続可能な農業のために組織を変革する必要性を強く感じていたことの表れです。

年配の組合員から賃上げが提案され、実行に移しました。若い世代の農業に対する意欲も大きく向上したと実感しています。

## 先進技術で支える 盤石な地域農業基盤

サポート小田は、ドローンによる農薬散布やラジコン草刈機などの先進技術を効果的に運用するため、従来の集落協定では難しかった収益性

を確保できる組織体制を構築しています。これにより、利用料を通じてメンテナンス費用などの維持費を適切に賄い、持続可能な運営を実現しています。

作業の遅れなど、SOSが出た際には、迅速に応援に駆けつけられる体制を整え、各農家の負担軽減と安定した農業経営をサポートしています。

将来を見据え、個々の組織単独では持続が困難であるという現状認識のもと、「小田真木地区の農業を将来にわたって守り、発展させていこう」という強い意志を持って活動しています。



農業機械と松田さん

## 今月の表紙写真



「わずかな収穫では感動も少ないから、本物の体験をさせてほしい!」という保育所からの熱い要望をきっかけに、稲刈り体験は5年続いています。そして今年は、田植え体験も初めて実施しました。泥だらけになりながら歓声をあげる子どもたちの姿は、地域に新たな感動と活力を与えたことでしょう。

## 《キラリ★飯南人》募集中

「明日を拓く」で取り上げてほしい個人・団体などの情報をお寄せください。議会広報委員が取材に伺います。

《応募先》飯南町議会事務局  
0854-76-2190



## 議会広報常任委員会

委員長:戸谷 ひとみ 副委員長:平石 玲児 委員:伊藤 好晴 高橋 英次 安部 誠也 安部 丘

飯南町議会事務局 島根県飯石郡飯南町下赤名880番地 TEL0854-76-2190 FAX0854-76-2867